春夏秋冬

武蔵野会ニュース No. 140 平成23年1月15日
発行 社会福祉法人武蔵野会
本部 東京都八王子市台町1-19-3 TEL042(623)8509
http://www.musashinokai.jp/

新年のごあいさつ

「楽しいね」（すぎな愛育園）

トーク　ベジマンデー

昨秋、旧知の音楽家のリサイタルに行ったら、小太りだった彼がスリムで精悍なスタイルになっていました。演奏の合間でのトークでは、「3年前から完全なベジタリアン(菜食主義者)になったが、体調もとてもよい」とのこと。

ベジタリアンになった理由について、「食べるために動物を殺すのは仕方がないと言う人もいるが、動物であっても、嫌がるものを捕まえて殺すのはとても理不尽なことではないか」「音を磨き、心を磨くことと、他の生命を尊重する生き方をすることは繋がっている」などの説明がありました。

そのもう一つ大きな理由は、肉食が地球環境に及ぼす影響ということです。例えば、穀物を家畜の飼料として与え、その肉を人が食べる場合と、穀物をそのまま人の食糧にする場合とでは、必要な穀物量が16倍も違うとか。穀物栽培のために森林を伐採して畑地づくりを進め、結果として砂漠化が進行している例がアマゾンなど世界各地で見られています。

また、毎年全世界で560億頭・匹も生産されている畜産動物に与えるための穀物をそのまま人間の食糧とすれば、飢えに苦しむ貧しい20億の人々を十分支えることができるともありました。このようなことから、2008年に国連が「週1日は菜食を」と提案し、現在、英米などを中心に世界各国で月曜日を菜食の日とする「ベジマンデー」という取り組みが広がっているそうです。

他の生命を糧とすることに感謝を込めて毎食時「いただきます」と言ってから食べる人は多いと思いますが、さらに、毎週月曜日は肉と魚を食べない日とする人が我が国でも増えてくるかもしれません。福祉施設としてそのようなときどう対応していくか、前向きに検討すべき課題だと考えます。

社会福祉法人武蔵野会 理事長　上野　純宏

新年挨拶

理事長　上野　純宏

国の各種政策会議で、社会福祉法人の経営にも影響が及ぶ内容の検討が行われており、全国社会福祉施設経営者協議会では、社会福祉法人の役割や意義について、改めてアピールに努めています。

このような観点からも、種々の社会貢献事業の実施も含めた法人の第2期中期計画の着実な遂行が不可欠ですが、中でも、利用者の方々の基本的な生活環境の不断の改善は重要な課題となります。入浴設備の更新やエレベーターの新設、より良い食事の提供のための給食委託先の厳選など、これまでに続き、各施設の取り組みを積極的に進めてまいります。

今年もどうかよろしくお願い申し上げます。

善意の贈り物に深く感謝します

武蔵野会後援会
会長　石谷　暢司

「九層の台は累土より起る」のことわざのように、会員の皆様のたゆまざる物心の善意の贈り物が、本年度も後援会に寄せられ、昨年12月には本年度目標額の七割に相当する額を法人武蔵野会にお届け致しました。ここにご報告致し、皆様のご支援に深く感謝申し上げる次第です。また、本年度は「募金箱」を置いてくださる方を求める活動を法人武蔵野会のご協力を頂きながら推進しています。

皆様の近隣の知己の方々にも呼びかけて頂き、募金箱設置と募金キャンペーンと目標額達成に一層のご協力をお願い致します。

法人役員挨拶（順不同）

（理　事）

青木　昌子

武蔵野会の理念を軸に、より質の高い福祉サービス事業の展開とその実践の先には、利用者の平穏な生活の持続に繋がります。昨年、法人が一般社団法人・成年後見センター「みんなの力」を立ち上げたことも、これに寄与する有力な手だてになると思います。会員制の持続的な発展に多くの方々のご理解・ご協力をお願いいたします。

金森　仁

年末に大掃除をして、体の節々が痛みます。大した労働ではないのに、疲れたとか痛いとか文句の出る自分が情けなくなります。

福祉の現場では、肉体的にも精神的にも厳しい労働環境にあると思います。職員の皆様が日々努力されていることに本当に頭が下がります。

皆様に良い年が来るよう祈ります。

廣本　肇

礼を過ぎれば諂い（へつら）になる。仁に過ぎれば弱くなる。義に過ぎれば固くなる。智に過ぎれば嘘をつく。信に過ぎれば損をする。儒教の五常（伊達政宗）。

何事もホドホドでムキにならない。よく寝て、おしゃべりを楽しみ、笑うこと。これは脳を活性化させる原則。だから、私はもうダメと思いこまないで挑戦し人生を輝かせる。

渡辺　瞭

「優しさがいつも中心にある」これは小平福祉園の大島施設長が『こげら』（第5号）のコラム欄

むさしの武蔵野

人権に思うこと

中国の人権活動家である劉暁波氏が2010年のノーベル平和賞を受賞したことは記憶に新しい。今やアメリカに次ぐ経済大国になった中国だが、めざましい発展の影に格差の拡大や環境汚染、大規模な砂漠化などの不安要素も増大している。人権擁護や民主化を語る氏が国家転覆扇動の罪により投獄され、授賞式にも参加できないということに大きな違和感と悔しさを憶えずにはいられない。これまで多くの国が長い時間をかけてすこしずつ確立してきた人権尊重の理念が、一日も早く隣国に育つことを願ってやまない。

振り返って、12月9日は障害者の日である。また、3日から9日までの一週間を障害者週間とし、自治体や各種関係団体では障害者にちなんだイベントを行うこととしている。戦後、立ち後れていた我が国の障害者施策が急速に進んだのもここからである。毎年この時期、区内の障害者関係団体がこぞって参加する障害者フェスティバルが行われる。障害者の権利が、ただ単に与えられたものではなく、長年の運動の末に

に新人女性職員の姿を現したものである。これこそ介護支援に当たって自分の仕事や判断に迷いが生じた時、立ち返る原点であると思う。今年も武蔵野会の利用者、職員すべてが幸せな一年であります様に！

青木　秀雄

職員各位の日夜のご尽力に厚く感謝してエールをお送りします。

「愛」には「勇気」が必要です。業務遂行には、使命感・責任感、自負心や忍耐に加え、克服すべき困難性に対する深い洞察が不可欠です。「勇気」とは、この知恵をもって、高いハードルを恐れず挑戦する「隣人愛」に満ちた精神の力です。「虎穴に入らずんば虎児を得ず」の覚悟で、前進あるのみ。

村山　悦正

昨年のチリにおける三十三名の救出活動に多くの方々が勇気と感動を共有したことと思います。

私も人生において最も大切な原点が、命の尊さ、家族愛のすばらしさ、そして何よりも人と人との絆の大切さであり、これらはいかなる時代においても普遍であることを再認識いたしました。

今坂　康志

この10年の精神医療の進歩はすさまじいものがあります。新しい向精神薬が続々登場し、効果、副作用の面で従来の薬よりはるかに優れています。新しい知識を吸収し、治療に生かせるように必死に勉強しています。利用者の皆様の健康のため、今年も一生懸命頑張ります。お気づきの点ありましたらお気軽に声をかけてください。

中島　通子

新たな障害者福祉政策で「重い障害のある人でも地域での暮らしを選択できる基盤づくり」に向けた検討が行われる中で、施設のあり方が大きく変わろうとしています。どのような時代になっても武蔵野会は、支援を必要とする多くの人達に質の高いサービスを提供するために邁進しています。施設は利用者の地域生活を支える役割としても重要な鍵となるはずです。

高橋　信夫

就職氷河期といわれていますが、福祉を目指す学生は飛躍的に増えたという実感はありません。

今年もその傾向は変わらないかもしれませんが、昨年「もしドラ」で注目され、法人では3年前から課題図書にしているドラッカーがいうとおり、福祉は人の生活や社会をより良く変えていく重要な仕事だと言い続けていきたいと思います。

（監　事）

春日　完和

武蔵野会の組織運営に携わって間もなく7年になります。就任当時の事務監査対象施設等は12でしたが昨年2倍になりました。この進展は、官から民へ移譲する際の当該機関の審査結果で、武蔵野会に対する高い評価によるものであり（機関のホームページで公表）、7年になる職務を通してその実績を認識しています。

勝ち取ってきたものであることを再認識する機会になればと思い、これからも施設を上げて参加していきたいと考えている。

今年で3回目となる武蔵野会セミナーでは、主要テーマを「人権」とし、障害者の人権のみならず、子ども、エイズ、ホームレス、ハンセン病、累犯障害者等々、差別をうけやすい様々な人々の人権問題を考える機会としている。私たち福祉に携わる職員にとっても人権問題を自分の問題として考え、行動を起こす絶好の機会でもある。

こうした中、隣国北朝鮮による韓国領土への砲撃事件をきっかけに、韓国ばかりか日本全体が急速に右傾化している。過去の侵略の歴史を忘れ、今また集団的自衛権の名の下に自衛隊派兵の拡大解釈が各所で論議されている。武力には武力で対抗せよとの、評論家等の舌鋒にけっして踊らされてはなるまい。人が人として生きていくために、人権を根こそぎ奪ってしまう戦争を絶対に肯定してはならない。たとえ臆病者と指さされようとも。

練馬区立大泉町福祉園
施設長　木村　文孝

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いいたします

社会福祉法人武蔵野会職員一同

武蔵野児童学園
施設長　上林　悟

すぎな愛育園
施設長　山田貴美

八王子市心身障害者福祉センター
所長　龍原敏勝

希望の里
施設長　村山俊彦

八王子福祉作業所
施設長　森　直貴

八王子生活実習所
施設長　山内哲也（本部次長）

大島恵の園
施設長　多々良康子

第２大島恵の園
施設長　萬谷高文

さくら学園
施設長　安田喜人

法人本部
理事長　上野純宏　　主　任　津川志帆
本部長　高橋信夫　　事務員　田代孝代
課　長　中山政夫

練馬福祉園
施設長　中島通子

練馬区立大泉町福祉園
施設長　木村文孝

練馬区立北町福祉作業所
施設長　金澤正義

練馬区立光が丘障害者地域
生活支援センター「すてっぷ」
所長　石野哲朗

西水元あやめ園
施設長　吉倉美佐子

東堀切くすのき園
施設長　岡部智彦

白鳥福祉館
施設長　福元　與

きね川福祉作業所
施設長　須永　正

世田谷区立駒沢生活実習所
施設長　宮原康輔

世田谷区立烏山福祉作業所
施設長　横尾泰朗

世田谷区立世田谷福祉作業所
施設長　野々村武志

世田谷区立九品仏生活実習所
施設長　松岡利明

小平福祉園
施設長　大島安彦

千代田区立障害者福祉センター
施設長　大和田　卓

練馬区立光が丘福祉園
４月より運営を開始します

ニュースラウンジ

練馬区立光が丘福祉園運営準備開始

平成23年4月から、当法人が指定管理者として運営を開始する練馬区立光が丘福祉園は、障害者自立支援法に基づく、生活介護事業を行います。昭和63年4月に光が丘生活実習所として開設され、平成7年4月に法内化に伴い、現在の光が丘福祉園となりました。地下鉄大江戸線の光が丘駅から徒歩で10分程度で、横に保育園、前に児童公園、道を挟んで広大な光が丘公園、直ぐ近くには日大光が丘病院、駅前には区民センター（当法人が運営する光が丘「すてっぷ」があります）や大きなショッピングセンターという恵まれた環境下に立地しています。都営住宅8階建の1階部分にあり、住宅の住民から、多くの協力を受けています。利用定員は現在34名ですが、4月には6名が増員され40名になる予定です。

利用者の3分の2の方々が知的障害と肢体不自由が重複しており、また、さらに、半数以上の方々が、視覚障害、聴覚障害、てんかんのどれかを重複しています。男性は26名で平均年齢は30才、女性は8名で平均年齢は35才です。活動は4グループに分かれ、手工芸、地域清掃、リサイクル等の作業やストレッチ、ウォーキング、プール等の健康維持、陶芸やリトミック、外出や行事等の趣味や余暇、日常生活の支援など、様々な活動を個人のニーズに合わせて行っています。当法人の4月からの運営は、これらの貴重な利用者の経験を理解し引き継ぎながら、さらに発展させていければと考えています。

都営住宅の1階という立地条件。法人施設だけではなく、地域の施設との連携もすすめます。

この1月から、当法人から、1人の男性主任と1人の女性のリーダーが既に引き継ぎのために、光が丘福祉園で常勤しています。いずれも知的障害の経験が深く、多くのものを吸収してくれると思います。1月中盤からは、さらに、1人男性の主任、2月からは男性のリーダーが加わり、各グループの活動や、個別の支援を丁寧に引き継ぎをしていき、利用者の方々、ご家族の方々の不安を取り除いていきたいと思います。施設長、経理職員、看護師、調理師についても出勤日を決め、確実に引き継いでいく計画です。

練馬区には、練馬福祉園という核となる入所施設があり、北町福祉作業所、大泉福祉園、障害者地域生活支援センター「すてっぷ」があります。これらの法人施設や練馬区との連携はもちろん、近隣の福祉団体や教育機関、そして何より、これまでの近隣住民との関係を大切にしていきたいと思います。

施設あれやこれや

練馬区立北町福祉作業所

来年度から5年間、当作業所の指定管理者（二期目）として引き続き武蔵野会が運営を担うことが決まりました。4月から新たに仲間入りする光が丘福祉園はじめ練馬地区のきょうだい施設とさらに連携を強め、地域に根ざした支援と利用者の幸せの実現、職員の働きがい向上のために頑張ります。

第2大島恵の園

12月1日は事例研究発表会を実施しました。オンブズマン2名が参加してくださり、緊張の中にも温かい眼差しが感じられた充実の一日となりました。

1月、2月は地域貢献活動のセミナーが続きます。大島の施設として地域の社会福祉の拠点となるべく活動していきます。

八王子市心身障害者福祉センター

昨年、当センターは多くの方々に支えられ30周年を迎えました。式典では各障害者団体をはじめ、当センターをこよなく愛する多くの方々の参加の下、センター事業に多大なご協力をいただきました方々へ感謝状を贈らせていただきました。

また、歴代所長にも出席いただき、思い出話などで会場は盛り上がりました。新たな目標に向けて出発です。

これからも変わらぬご支援宜しくお願い申し上げます。

新法移行に合わせて増改築 希望の里

希望の里は、23年3月に新法移行を決め、東京都基盤整備事業補助金を申請して、建物増改築を行っています。平成22年10月23日から工事が着工し、年内に増設部分を完了するスケジュールで、利用者の安全、作業への影響を考え、休日・祭日を含めた工事を進めています。新法移行後は、10名増員の40名定員で、生産活動を中心とした生活介護、就労継続支援B型の支援を展開する多機能型施設へとなる予定です。そこで活動スペース、更衣室等の確保と、多目的トイレ設置、1階トイレのバリアフリー化等の改修をします。増築部分は、12月に入り、外装工事のための足場が撤去され、ユニークな形状の屋根が表れ、新しさと中に入ってみたくなる興味深いデザインとなっています。日の光が十分に入る洒落た高い窓、居心地の良い空間になりそうで期待が高まっています。既存スペースの改修も計画的にすすめられ、平成23年2月中に完成となります。

新棟はしゃれた屋根がアクセントのユニークなデザイン

韓国からの見学訪問 えみふる

千代田区立障害者福祉センターえみふるでは、昨年の一月の開設以来、様々な見学者が来園しています。都内を中心に地方自治体関係者や親の会、当事者の会などの方でしたが、十二月六日にお隣りの韓国から、ソウル障害者総合福祉センターの機能訓練部門の部長とチームリーダーの方が通訳を伴って見学がありました。武蔵野会本部に見学依頼があり、最新の設備を備え、積極的に機能訓練に取り組んでいる千代田区立障害者福祉センターえみふるを見学したいという事でした。

えみふるでは、全事業の説明と、館内設備をご案内しましたが、特に機械浴槽やマシーンリハビリの機器に関心を持って多数質問がありました。また、韓国では、精神障害者への福祉サービスは、あまりないそうで、熱心に説明をお聞きになっていた様子でした。なお、法人内の他施設も見学の希望がありましたが、時間的な制約もあり、当日はえみふるのみの見学となりました。ソウル障害者総合福祉センターは、様々な機能訓練の専門職員をそろえ、公設民営で運営されている福祉施設で水中リハビリテーション施設や身体障害者への機能訓練だけではなく、知的障害者の職業訓練事業なども行っているという事でした。同施設の紹介ビデオや日本版のパンフレットも持参され、日本からの見学者も多いという事でした。

マシーンリハビリ機器に関しての質問が、見学者からたくさん頂きました

烏山福祉作業所

就労移行支援サービスをスタートして2年目、障害者雇用がなかなか進まないなか、この度T・Hさんが実習やトライアル雇用を経て、ベネッセコーポレーションが運営する特別養護老人ホームに就職されました。今後もこれまで以上に応援していきたいと考えています。

東堀切くすのき園

全体レクリエーションで手打ちうどんを作りました。午前中は粉をビニールに入れて、利用者の皆さんは足で踏んだり手でこねたりの大奮闘。午後は試食です。満面の笑みで大成功の内に終了しました。

小平福祉園

昨年は施設移譲2年目で「継続は改革の第一歩」と利用者の生活に「活気と潤い」をテーマに、日中活動等の体制を大幅に変更しました。そして今年はさらに体制の定着と、目前に迫った施設の建て替え計画を進めたいと思います。

武蔵野児童学園

子どもたちは1月1日に「お年玉」を貰い、2日は恒例の在園児全員での外出です。中高生は「東京ディズニーランド」小学高学年は「西武園」小学低学年・幼児は「さがみ湖プレジャーフォレスト」に出掛け、寒さを吹っ飛ばして、一日めいっぱい楽しんできました。

ぷらさ

『みんなの力』第一回社員総会開催

平成21年12月に武蔵野会が協力して設立された一般社団法人「みんなの力」の第1回社員総会が11月30日に開催されました。役員の他、当法人で会員となっている職員を含め29人が参加し、第1期の事業報告、決算報告と第2期の事業計画（案）の議案が議決されました。正会員が129人、賛助会員138人で、合計しても、まだ267人ですが、今期には4人の成年後見実務が始まります。また、東京都福祉サービス第3者評価事業所に認証され、評価事業も始ります。武蔵野会として、積極的にバックアップしていきたいと思います。

今期、いよいよ成年後見実務がスタートする他、新事業も始まります。

お知らせコーナー

1月
- 4日　新年会　（大泉町福祉園）
- 7日　第8回北町きらきら亭　（北町福祉作業所）
- 　　新成人を祝う会　（大泉町福祉園）
- 10日　講演会（亀有）　（白鳥福祉館）
- 13日　新年会、成人を祝う会　（白鳥福祉館）
- 14日　新年もちつき会　（北町福祉作業所）
- 　　成人式、新年会　（駒沢生活実習所）
- 18日　虐待防止研修　（法人）
- 21日　練馬地区支援実践報告会　（練馬地区）
- 27日　第242回理事会　（法人）
- 30日　退園生会　（武蔵野児童学園）

2月
- 3日　施設公開　（大泉町福祉園）
- 4～6日　KOMA展・作品展　（駒沢生活実習所）
- 10日　業務標準化研修　（法人）
- 19日　第3回きら☆きらコンサート
- 23日　八王子福祉セミナー

3月
- 4日　春の集い　（駒沢生活実習所）
- 8・10日　八王子福祉セミナー
- 13日　東社協福祉マラソン大会参加
- 20日　壮行会　（武蔵野児童学園）
- 23～25日　法人新任職員研修

ショーケース
自主生産品紹介
練馬福祉園 の巻

住所
〒178-0061
東京都練馬区大泉学園町9－4－1
電話 03-3978-5141

練馬福祉園では、昨年度から自主生産品を販売しています。

ハーブ班では、練馬福祉園育ちのハーブをポプリや入浴剤に加工し定番製品として地域の皆様に提供しています。

期間限定商品のクリスマスリースは、園芸班で育てたもっこうバラのツルや白妙菊の葉・茎・花を土台に製品化しました。そしてこれらの製品は、エコポット班の鉢植え（古紙利用ポット）に装飾しオリジナルなコラボレーション製品に出来上がりました。

本格的な窯を備えた陶芸班では、趣ある陶器の種類と数をそろえてお客様をお待ちしています。

クッキング班のシフォンケーキは、地域では人気商品ですが、喫茶「陽だまり」でハーブ茶と一緒に食べるとまた一味違います。

農地班では、季節の野菜や果実を販売し、無農薬のフレッシュさを近隣の皆様に喜んで頂いています。最近では、地域の方がボランティアとして参加して下さり、利用者の皆さんと一緒に製品づくりの合間のおしゃべりが、これからの地域との交流の場として広がっていくことを期待させてくれています。

練馬育ちのハーブが好評です。地域の皆様におなじみの入浴剤、どうぞ、お試しあれ。

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する23施設と4つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931
東京都八王子市台町 1-19-3
電話・FAX 042－626－9772